

眠った品から掘り出しものを

不要本やCD交換会

残った品も学習支援に活用

古川

会場には、小説や実用書、児童書などの多種多様な本や、洋楽、邦楽のCDなどが箱にぎっしり。交換券を手にした人たちは、掘り出し物を見つけようと探し回っていた。

「不要本・絵本・CD交換会」が29日、大崎市古川の仙台銀行古川支店駐車場で開かれ、自宅に眠っている不要品を持ち寄った市民がお目当ての品と交換した。残ったものは換金し、子どもの学習支援に活用する。

寄付された品は基本的にすべて換金し、同NPO法人の学び直し支援「志誠塾『おおさき寺子屋』」に活用。教材用の本はそのまま使用することもあり、絵本は児童館に寄付する。

三本木小4年の高島瑞葵君(10)は、絵本の英和辞典を本格的なものに交換。「読書が好きなので、たくさんの本から選ぶだけで楽しい。次もまた来たい」と話していた。

援に活用する。

大崎市古川のNPO法人Synapse40(シナプスフォーティ)、千葉繁美代表)主催。昨年から取り組んでおり、こじしは5、9月に続いて3回目。

仕組みは、使用済みの本やCDを手渡すと、その個数の約8割分の枚数の交換券を受け取り、券1枚につき、手渡したものと同種類の物品1点と交換でき、差額分を同人へ寄付する。



不要品を手渡し、掘り出しものを探す参加者